

成逸学区避難所運営マニュアルを作成

先進的な防災活動の内容

成逸自主防災会では、地震等の大規模災害が発生した際に、京都市が指定した市立北総合支援学校を避難所として使用します。

迅速、確実に避難者を受け入れ、生命の安全を守り、被災による心身の傷をいやし、再建への希望を見出す拠点づくりとなるよう、自主防災会と住民福祉協議会が連携して、「成逸学区避難所運営マニュアル」を策定しました。

これは市内各自主防災会の中でも先駆的な事例で、学区の総合防災訓練においても、このマニュアルに基づき自主的な「避難所運営訓練」を実施しました。

このマニュアルの内容は、予め地域住民が共通の認識を持つておくことが重要という観点から、避難所生活を営むうえで、遭遇するであろう諸課題を記載しています。また、避難所を円滑に運営していくための具体的な手順やルールなど、災害発生後の避難所開設時期から概ね3週間程度経過した時点まで、時系列で運営方針を詳細にまとめました。



特記事項

- 本マニュアルの策定経緯は、避難所において多数の住民が団体生活を行ううえでの必要最小限度の生活基本ルールを定めたものです。
暴力や利己主義の不適切言動等で団体生活を乱す者が存在した場合を想定して、事前に「取決め事項」を定めることにより、避難所での混乱を防止することを目的に策定したものです。
- 今後も、この「避難所運営マニュアル」に基づく「避難所運営訓練」を学区の総合防災訓練として繰り返すなかで、住民の意見等に基づき検討を進め、改定していく予定です。

「防火プランター」と「災害時集合場所」プレートの作成

先進的な防災活動の内容

教業学区自主防災会では、市営地下鉄東西線の開通を契機に、マンションや住宅の建設が相次ぎ新住民が増える一方、学区内には一人暮らしの高齢者も多く、住民のコミュニケーション不足を懸念していました。そこで、防火標語を入れた防火プランターを民家の軒先や住民の集う場所(21箇46基)に設置しました。住民が定期的な水やりをし、通りがかりの高齢者やマンション住民らとの間に会話が生まれ、防火意識の向上と、人と人とのコミュニケーション

を育んでいます。

更に、全自主防災部(21防災部)に「災害時集合場所」と記した表示板を設置しました。学生マンションや短期居住のマンション掲示板にも集合場所をお知らせしています。災害時には、各防災部ごとに表示した場所に集合し、人員確認・安否確認等、組織的な活動を行い、近隣住民が助け合い誘導し合って、安全に避難所へ向かおうとするものです。



特記事項

- プランターには、日々草を植え「にちにちそうです 火の用心」と語路合わせの標語を添えました。新旧住民が一緒に花の世話をすることで、花言葉である「生涯の友情」と交流の輪が広がっています。
- 「災害時集合場所」の表示板は、縦40cm、横15cmのステンレス製で下部に各自主防災部名を入れました。各町内の集合場所に統一した明示が出来たと好評です。
- 防災で最も大切なことは、まず住民間のコミュニケーションの向上を図り、人々とのつながりを大切にして、身近なことからコツコツとやることです。

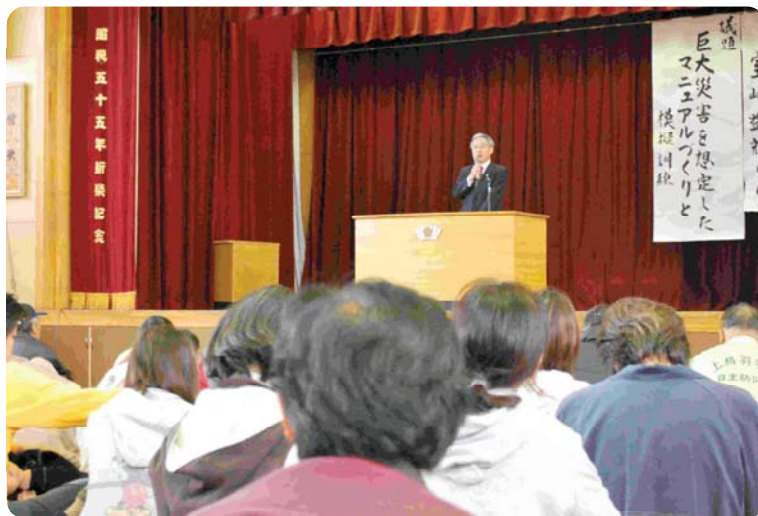
「大災害発生！避難所では？」講演会を実施

先進的な防災活動の内容

上鳥羽学区自主防災会では、上鳥羽小学校に関西学院大学災害復興制度研究所の室崎益輝(むろさき よしてる)所長を迎え、「巨大災害を想定したマニュアルづくりと模擬訓練」というタイトルで講演会を開催しました。講演内容は、阪神・淡路大震災時に幾つかの避難所を巡り、そこで実際にあったことを基にした内容で、一斉に避難が始まると体育館の場所取りが行われたため、適切な場所が与えられない人が出たことや、ペットを連れ込む人、自分はお客さんだと勘違いする人がいたことなど、災害発生

に伴う人間のエゴについて話がありました。

次に、健康面や精神面では、非常食ばかりで栄養が偏り、口内炎やその他の病気の原因となること、化粧ができなくなった女性にストレスが発生したこと等、具体的な事例を織り交ぜての講演でした。1時間30分の講演でしたが、参加者は熱心に耳を傾けており、避難所の設営と運営についての重要性が参加者に伝わりました。万一の災害で、避難所生活を余儀なくされた場合は、今回の講演内容が大いに役立つことと思います。



特 記 事 項

- 上鳥羽学区総合防災訓練の打合せ時、今年はこれまでと違うものをやってみようとの声が上がリ、この講演会が決定しました。しかし、上鳥羽学区では講演会の開催が初体験であり、どの先生にどのような方法でお願いしたらいいものかが分からず、暗中模索の状態でお出しました。
- 今回の講演を多くの学区民が聴講したことにより、上鳥羽学区で避難所生活が余儀なくされた場合でも、避難所生活でのトラブル等、他の避難場所と比較して大きく減少することが期待できます。講演会の発案者も400名を超える学区民が聴講したことで、自主防災会役員一同「ほっと」胸をなでおろしていました。

大災害時に自主的な活動を

先進的な防災活動の内容

桂学区自主防災会では、例年、より実災害に近い形での総合防災訓練を実施しています。とりわけ防災活動が非常に困難になる夜間の時間帯を想定し、各自主防災部での地域発災対応訓練、避難所(桂小学校)までの避難訓練、また、避難所(桂小学校)での支援訓練と、一連の防災活動を自主的かつ組織的に行うことを目的としています。

本年度は特に避難所(桂小学校)での訓練に重点を置きました。行政機関等の支援体制が整わない状態であることを想定し、避難場所である体育館において、校内にある畳、マット、いす等を活用した避難所確保、食料調達(飲料等)、その他、桂消防分団と協力し照明、器材搬送活動の訓練を行いました。



特 記 事 項

- 実際に近い状況を想定し、自主防災会長の意向により、あらかじめ避難所での具体的な役割等を決めずに実施しました。
- 最初は全く何をしてもいかわからない自主防災部もありましたが、自主防災会長の指示の下、消防団、各種団体の方々に誘導されるように協力して訓練が進みました。
- 大災害時での情報収集及び情報伝達、各自主防災部での組織的な活動及び協力が非常に重要であることを訓練参加者が実感した訓練でした。

京都大学防災研究所で水災害を体験

先進的な防災活動の内容

淀南学区自主防災会では、平成22年1月26日(水)に京都大学防災研究所宇治川ラボラトリーにおいて、水災害の体験を実施しました。

京都市の最南端、桂川・宇治川・木津川の三川合流地域にある淀南学区は、水災害と密接に関係のある地域で、自主防災会長の防災に対する熱い思いが伝わり、京都大学防災研究所の教授及び准教授のほか2名の先生方の御協力により今回の研修を実現することができました。

平日にも関わらず35名の学区民が参加し、教授による講義、200ミリ降雨体験、階

段の40センチ流水体験及び浸水時のドア開放体験をしました。

講義中に巨椋池の再現とも言われる昭和28年9月の台風13号に伴う洪水災害写真が映し出された際には、教室内にざわめきが起きました。

学区民の皆さんは、体験コーナーにも積極的に参加し、大盛況のうちに約2時間で修了しました。

水災害に関心のある方は、先生から年に1度だけ、10月に一般公開しているとの話も伺いましたので、下記のホームページをチェックされてはいかがでしょうか。



京都大学防災研究所 宇治川オープンラボラトリー

ホームページ <http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/openlab/>

特記事項

- 先生の御都合で平日の実施となり、参加者集めに苦労しました。
- 洪水災害写真には京都競馬場が写っていたことから、参加者の自宅位置が概ね特定できる状況であり、水災害の恐ろしさを実感していただけるよい機会となりました。

共同住宅ベランダからの避難訓練

先進的な防災活動の内容

小栗栖学区自主防災会では、中層共同住宅が多く、地域内の全世帯の約95%を占めています。

火災が発生したり、大地震で家財等が障害となって玄関から避難できないこともあり、各階のベランダには、避難する経路を確保するために、緊急時に破壊できるようになったパーテーション(仕切り板)が設置されていますが、普段は、災害や緊急性がない限りパーテーションを破壊することはありません。

そのため、小栗栖消防分団の御協力に

より、総合防災訓練の一つとして、パーテーションを破壊する訓練を取り入れ、成人はもとより、子どもや高齢者の皆さんにもパーテーションを破壊するという貴重な体験をしていただきました。

また、参加される学区民すべての皆さんに防災資器材を手にとってもらえるよう、救出訓練にも時間を割いて、例年よりも30分間訓練時間を長くしましたが、結果は、各人が考え、試し、協力し合って訓練をするといった学区民全員の参加型の訓練が実施できました。



特記事項

- 今回の総合防災訓練では、人を助ける難しさを知り、一人では不可能なことが、みんなで力を合わせることによって可能となることを学び、また、そのために必要な技能を習得していただくということを訓練の主眼としました。
- 事前打合せ会において、「救出・搬送訓練」で竹ざおと毛布を活用した応急担架の作製や、「応急手当訓練」で傘とネクタイを活用した患部固定するといった二つの意見が席上提案されて協議した結果、各ブースに取り入れ、創意工夫を凝らした訓練を実施することができました。

総合防災訓練に向けての図上訓練

先進的な防災活動の内容

日野学区自主防災会では、大規模災害発生時、行政からの支援に頼るだけでなく、「自分たちのまちや安全は自分たちで守る」をモットーに総合防災訓練を行っています。

具体的には、総合防災訓練において、自主防災会の会長を中心として役員の手で避難所を開設し、運用するという住民主体の実践的な訓練を実施しています。

自主防災会の役員一人一人が、自らの役割をしっかりと理解し、その手順や起こりうる問題点を確実に把握しておかなければ円滑に避難所を運営することはできません。

そこで、日野学区では、事前に何度も役員会を開催し、図上訓練を行います。

模造紙に訓練場所の見取図を記し、住民や各役員の行動をカードを使いながらシミュレーションすることで、細かい動きや新たな問題点を確認することができます。

このことにより、役員間で盛んに意見が飛び交うほか、各役割を具体的かつ実践的に理解することができ、しっかりとしたイメージを持って本番を迎えることができます。自主防災会の各役員は防災リーダーとして、学区民からの厚い信頼関係を築いています。



特記事項

- 避難所の開設は行政が行うものですが、大規模な被害が発生した場合には、すぐには手が回らないことが予想され、また、いち早い住民自身による避難所開設が被害の軽減と被災者の自立促進につながることから、重要であるという意識付けを行いました。
- 図上訓練は、自主防災会役員が主となって進行を担当し、問題提起等、役員同士が積極的に議論を交わすことに重点を置いて実施しました。
- 自主防災会役員が役員会を開催し、住民の代表として事前に訓練を行うことで、効率的で充実した訓練を実施することができ、また、各役員はそれぞれの役割や任務、その責任を自覚し、地域の防災リーダーとしての意識の向上につながりました。